

ブラジル  
アマパ・イニシアティブ  
現地からのお便り（2022年7月～2023年6月）

2023年8月  
コンサベーション・インターナショナル

ブラジルにおける「空気をはぐくむ森」プロジェクトは、アマパ国有林とアマパ州有林、2つの保護地域の保全を目的として、2014年から活動を行っています。主な対象は保護地域の内外に暮らすコミュニティで、人々の生活向上が森林生態系の保全と両立するために、コミュニティ組織の強化、保全に向けたコミュニケーション戦略、コミュニティによる木材および非木材産品を活用した活動の支援を行ってきました。

これまでの活動では、木材の持続的な管理、アンディローバ（オイルを抽出し化粧品などに活用）、コパイバ（オイルを抽出し化粧品などに活用）、レジン（天然樹脂）、ファーベ（豆）などの非木材産品の採取から製造に至る一連の活動支援、アグロエコロジーと呼ばれる自然に優しい農法の導入などを行い、活動を通じてコミュニティ組織の能力強化にも取り組みました。2014年から2017年にかけてプロジェクトが開発した研修コースは計27に達します。

また、これまでのプロジェクトの成果は、「持続可能でレジリエントなタパジヨス<sup>1</sup>」「低炭素社会の構築と活用<sup>2</sup>」「アマパ基金」など新しい活動に繋がっています。

2018年からアマゾン基金からの資金で始まった「持続可能でレジリエントなタパジヨス」は、「空気をはぐくむ森」プロジェクトと同様に、コミュニティ組織の強化を通じた持続可能な林業と非木材産品生産する取り組みで、パラ州西部の3つの保護林 Tapajós, Trairão and Itaituba I、を対象に実施しています。

「低炭素社会の構築と活用」は、2022年6月より GCF-TF（州知事気候と森林のタスクフォース）の資金により始まりました。プロジェクトの主な目的は、アマパ州の保全の取り組みが REDD+ Environmental Excellence Standard の基準を満たすことと、国際的な官民連携型の熱帯雨林保護イニシアチブ LEAF<sup>3</sup> の枠組みを有効活用することです。

また、「アマパ基金」はアマパ州の保護区と先住民族の土地の統合的管理を支援することを目的として、2022年に CI と GCF（緑の気候基金）が設立し、これまでにバイオ化粧品やブラジリアンナッツのサプライチェーン開発などの支援を Iratapuru 地域で実施してきました。アマパ基金の規模は約300万ドル（約4.3億円）で、毎年州内の新しいプロジェクトの支援に使われていく予定です。

---

<sup>1</sup> タパジヨスはアマゾン川の支流の1つ

<sup>2</sup> “Unlocking and Leveraging Low-Emission Development” project

<sup>3</sup> 2021年4月、気候リーダーズ・サミットの中で発足した、官民連携型の熱帯雨林保護イニシアチブ「Lowering Emissions by Accelerating Forest Finance（LEAF）」

## 昨年度（2022年7月～2023年6月）の活動

新型コロナの影響による様々な規制も収まり、プロジェクト最終年となる昨年度は森の種子協会（Association Sementeiras Araguari）の活動を重点的に行いました。

現在森の種子協会の活動は、Iepé（先住民族調査研究所）、ブラジル農牧研究公社（Embrapa）、アマパ州研究所（IEPA）、マミラウラ持続可能な開発研究所、アマパ基金とのパートナーシップによって実施されています。

### 森の種子協会の活動

昨年度の森の種子協会の活動は、非木材生産物、特にバイオ化粧品関連の活動を中心に行われました。活動では、バイオ化粧品の商品価値を高め、ビジネスとしての可能性を広げることを目的に、各種研修、ソーラーフードドライヤーの設置、物産フェアやイベントへの参加など、生産から流通まで広く取り組みました。

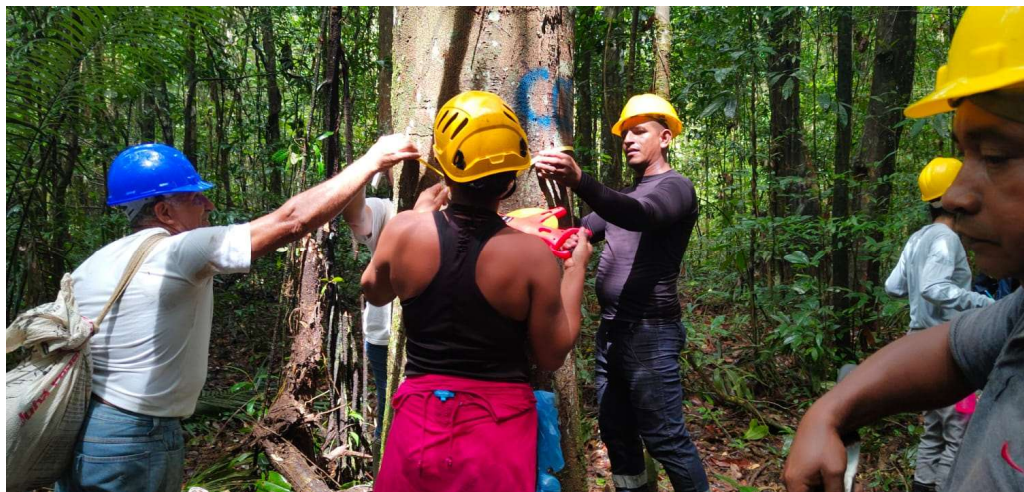
ソーラーフードドライヤーは、Embrapa から技術面の助言を受けながら、コミュニティ住民が協力して設置しました。今後はこれを活用することでアンディローバの種の乾燥を早めることが可能になります。



新たに設置されたソーラーフードドライヤー ©Embrapa

2023年2月には、機械を用いたコパイバオイル抽出方法に関するグッドプラクティス研修が行われました。研修はアマパ基金を活用し、Iepéからの協力も得ながら Embrapa の専門家が

実施しました。研修プログラムは座学と実践で構成され、森の種子協会から 15 名のメンバーが参加しました。



機械を用いたコパイオイル抽出のグッドプラクティス研修の様子  
©Arlete Pantoja

2023 年 8 月には、パラ州の州都ベレンで「アマゾンに関する意見交換会（Amazon Dialogues<sup>4</sup>）」が開催され、アマゾンの持続的な開発に向けた協議が行われました。このイベントにはブラジル含めアマゾンの周辺国から、市民団体、大学、研究機関、政府機関など多様なセクターから参加者が集まりました。森の種子協会はイベント会場にブースを設け、バイオ化粧品の展示を行う機会がありました。

<sup>4</sup> この Amazon Dialogues は 2023 年 9 月に開催される Amazon Summit に向けた事前協議の場で、アマゾンの持続的な開発に向けて必要な提言をまとめることを目的に開催されました。





Amazon Dialogue のイベントでバイオ化粧品を展示する森の種子協会  
© Arlete Pantoja

また昨年度の大きな成果として、森の種子協会が「Amapá Seal」と呼ばれるバイオ化粧品の認証を得たことが挙げられます。この認証制度は、バイオ化粧品の生産、製造、流通がアマパ州の規定を満たしていることを示すものです。



バイオ化粧品のサンプル  
© Conservation International



コパイバオイルを使った石鹸  
© Conservation International



アンディローバオイルを使った石鹸  
© Conservation International



アマゾン自生植物の Breu Branco から  
作った石鹸  
© Conservation International

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。